

道徳の時間で活用する ～公正、公平、社会正義～

防府市立松崎小学校 吉松 真理子

1 本場面におけるポイント

- いじめという行為により、拒食症や、対人恐怖症となり、人格を壊していく恐ろしさに気付くようにする。また、中心発問では、「いもうとがなくなったのはどうしてだろう。」と問うことで、人の命がなくなる理由について深く考えるようにする。
- 私たちの道徳を終末場面で活用するとともに、道徳の時間の事後に、道徳の時間に学習した道徳的価値についてのページについて活用し、さらに考えを深めるようにする。

2 授業の実践

1 主題名 「今 自分にできることは何だろう」
「わたしのいもうと」松谷みよ子（偕成社）

2 ねらい

いじめを受けて7年後に亡くなったいもうとの心情を考えることを通して、差別や偏見に対して見て見ぬふりをしてしまいがちな心の弱さを乗り越えて、勇気をもって公正・公平に接することの大切さに気付き、いじめを絶対にしない・許さないという態度を育てる。

3 展開

(1) 導入 課題意識をもつ

T : こんな詩があるから、聴いてね。
『私たちの道徳』P132 教師が読む。
いじめという行為で、つらく悲しい思いをしている人がいる。
今からみんなにお話するのは、本当にあった出来事です。本の作者である、松谷みよ子さんのもとに、ある日、一人の少女のことを書いた1通の手紙が届いたのです。この少女の身にどんなことが起こったのか・・・
そして、なぜこのようなことが起こるのか、私たちは、どのような考えをもち何をすべきかをみんなで考えていきましょう。

□ 指導上の留意点等

導入は、短時間で、資料の世界に児童を引き込むための雰囲気を作り、課題意識をもたせた。児童は、静かに聴き、「本当にあったことなんだ。」「知りたい。」等のつぶやきがあった。

(2) 展開 資料を視聴し、いもうとの心情を中心に話し合う。

T : いもうとが亡くなったのはどうしてだろう（中心発問）。
C : 部屋に閉じこもって、食事さえとらなかったから。
C : ストレスの積み重なりで、病気になってしまったのではないか。
C : 金縛りにあったみたいに、何もできなかったような気がする。
C : 心に深い傷ができたから、亡くなったのだと思う。
T : 身体に深い傷ができて亡くなってしまうのはわかるけれど、なぜ、心の傷で亡くなるの？
C : いじめで、心がずたずたになったのだと思う。誰一人助けてくれなかったことは、きっと、一生忘れない。せめて一度だけでも友達に優しくしてもらって、遊びたかったんだろうと思う。前の意見の付け加えにもなるけれど、一生直らないものが心にあると、心が金縛りになるのだと感じた。
C : こんな状況になったら、生きていても仕方ないと思うのかもしれないし、ショックで判断さえもできなくなるのかもしれない。悲しく辛い記憶がずっと存在し続けて、とうとう生きることができなくなってしまったんだ。最後に、お母さんにだけは、「学校にも行けなくて、笑顔も見せられなくてごめんなさい。」と伝えたかったと思う。

□ 指導上の留意点等

資料は3場面に分けて提示し、心と身体をぼろぼろにした、いもうとの状況を十分に把握したあと、衰弱しきったいもうとを抱きしめてねむる母親の心情も問い、中心発問に繋げた。いじめは、家族や周囲の人も痛みもがき、ぶつけることのできない怒りがあることを感じて、「一人の命を奪ったんだ。」「なんで、あんなにひどいことができるんか・・・。」と声が上がった。

T : なぜ、人はいじめをしてしまうのだろう。

C：悪口を言われる様子を見ていて、次は自分になったらと思うと怖いから。
 C：みんなと同じことをしていると、なんとなく安心するのではないか。仲間意識が働いているのだと思う。
 C：相手が学校を休んでいても、いつか登校するだろうと軽く考えていて、ふざけ半分の気持ちでやっているのかもしれない。
 T：悪気なく、あるいは保身のため…こんな気持ちは、ひょっとしたら、誰の心にも存在しているかもしれないし、自分にもあるかもしれない…。そう考えたとき、今、私たちにできることは何だろう。
 C：いじめは命を奪うこともあるので、絶対に負けないという強い気持ちでいること。
 C：自分がいじめている人に言えなかったら、先生や大人に相談して、いじめを止めてくださいと一生懸命にお願いをする。
 C：「いじめで、人の心を奪うな。」と強く言う自信がある。こんなことがあったら、私が守るし、自分が悪口を言われても守ったことの後悔はしない。
 C：自分は、いじめられた立場として考えて、とにかく、思い切って「苦しいよ。」と言う勇気をもつようにしたい。
 C 間違っている行動を見たときは、反対の意見を述べる自分になりたい。

□ 指導上の留意点等

展開後半において、自分の中にある、ひょっとしたら、自分もいじめるかもしれない、いじめられるかもしれない、そして、傍観者でいるかもしれないという感覚。そんな自分の中にある弱さと向き合わせ、それでもいじめを絶対に許さない強い気持ちをもつ自分でありたいという心を深めたいと考えていた。切実感のある対話にしたい。本音の言葉がほしい。そこで、いじめをしてしまう心を表出させ、自分であることを考えさせたのだが、最後に、やや概念的な発言になってしまった感がある。主人公に同化させ、自分自身のこととして考えさせることがやや足りなかったのかと振り返る。

(3) 終末 本時で学んだことを自分なりに整理し、振り返りをする。

T：みんなで、話し合ったこの時間をとても貴重なものだと考えている。もし、これからの人生の中で、人の心を傷つけたり、傷つけられたり…という場に自分が出会ってしまったとき、今日みんなで一生懸命に話し合ったことを思い出してほしい。

授業を通して、考えたことをワークシートに書きましょう。

！ P135 「いじめている君へ」千住 明；

最後に、「私たちの道徳」にある千住明さんのメッセージを読んで終わります。

児童のワークシートの記述から（抜粋）

- ・ ぼくはいじめをした実感はないけれど、ひょっとしたら傷つけたこともあったかもしれない。自分のしたことに責任をもたなければ。
- ・ この本では、いじめた人は後悔していないように書かれているけれど、本当は心の中でずっと気にしていたと思う。自分ならきっとすごく気になるし、後悔するから。

□ 指導上の留意点等

友達のワークシートの振り返りの言葉を聞くだけでなく、様々な人の生き方や考え方に学ぶために、千住明さんのメッセージを読んだ。また、数日後、「私たちの道徳」P134を記入し、本授業の事後でも、再度自己を振り返るようにした。

3 実践を振り返って

本授業では、まず、学習課題をどう設定するか迷った。展開後半で、概念的な言葉になってしまったことを省みるが、課題が児童にしっかりと把握できていなかったのではないかと考える。では、どんな課題がよかったのだろうか。授業後の協議により、本学習課題では、自分がどの立ち位置で考えるのかが曖昧ではないかという意見が出た。大きすぎる課題であったために、「人としてすべきことは…」という視点での意見が多くなってしまったようだ。授業後には、導入段階で、話し合いをさせ、みんなで何について話したいのか、話さなければいけないのかを考えさせ、そこから課題に繋げる展開もあるのではという気付きをいただいた。児童は、何を話し合うべきと考えたのだろう。亡くなった理由か、いじめをしてしまう心理か、姉の言葉のもつ意味か…。

本資料は、公正・公平だけでなく、勇気、そして、生命尊重の価値をもつ深いものである。どの学年においても、その発達段階にあった学びと心情に訴えるものがある。来年度も本主題に取り組みたいと、今強く思っている。

